

日本歴史言語学会設立までの経緯

事務局長 神山孝夫

関係各位のご理解とご協力により日本歴史言語学会が首尾よく誕生し、またここにその機関誌たる『歴史言語学』が創刊されることは誠に慶賀に堪えません。

以下、僭越ながら設立準備委員・暫定事務局を担当させていただいた立場より、時系列に従って同会設立までの主な経緯を整理・紹介するとともに、関係各位の労をねぎらう機会とさせていただければと思う次第であります。

日本歴史言語学会を通じてわが国の歴史言語学が生々発展するよう、また、やや私事にわたりますが吉岡治郎先生から世話人を受け継いだ大阪言語研究会、そのメインイベントのひとつであったIndo-European Colloquiumの伝統がここに生き続けることを祈念してやみません。

記

2010年

12月11日

The 19th Indo-European Colloquium of Japan (=大阪言語研究会第168回公開講演会、於大阪大学)において言語の歴史的研究を扱う新学会の設立が提案される【資料1】

2011年

1月1日

新学会設立の趣旨に賛同した以下の方々によって暫定設立準備委員会を結成【資料2】

神山孝夫 (大阪大学文学研究科教授、暫定事務局)

後藤敏文 (東北大学文学研究科教授)

清水 誠 (北海道大学文学研究科教授)

鈴木誠一 (関西外国語大学外国語学部教授)

千種眞一 (東北大学文学研究科教授)

堂山英一郎 (大阪大学文学研究科講師)

野田恵剛 (中部大学教養部教授)

町田 健 (名古屋大学文学研究科教授)

(五十音順)

1月20日

新学会の名称を「日本歴史言語学会」に決定

「日本歴史言語学会」設立発起人の募集を開始【資料3】

2月10日

関係者に「日本歴史言語学会 設立のお知らせ」【資料4】を送付、会員募集を開始
暫定ホームページを <http://www.let.osaka-u.ac.jp/~kamiyama/> 内に開設

3月11日

東日本大震災発生
東北地方、関東地方在住の関係者の被災等によって設立準備作業にやや遅延が発生

5月14日

関係者に「日本歴史言語学会 設立総会・第一回大会のお知らせ」【資料5】を送付、研究発表の募集開始

5月31日

公式ホームページ（<http://www.jp-histling.com/>）開設
資料4、5を含め学会設立、大会開催、研究発表募集等についての情報を順次掲載

8月31日

第一回大会研究発表申し込み〆切

10月5日

「日本歴史言語学会 設立総会・第一回大会」（プログラム）【資料6】を周知
入会希望者ないし関係者へ一斉メールを送信、あわせてホームページに掲載

12月17日

日本歴史言語学会 設立総会開催（於大阪大学豊中総合学館）
会則、名誉会員、理事、会長、副会長が承認され、日本歴史言語学会が正式に発足
続いて第一回大会開催（～翌18日）

次葉以下に補足資料あり。

【資料1】

大阪言語研究会 第168回公開講演会

The 19th Indo-European Colloquium of Japan

時 2010年12月11日(土) 13:30より
於 大阪大学待兼山キャンパス
文法経講義棟4階 文41教室

プログラム

(案内状と異同あり)

開会の辞	神山 孝夫 (大阪大学教授)
土居敏雄先生のご逝去を悼む	本城 二郎 (大阪大学講師)
蛭沼寿雄先生の遺作『新約本文のパピルス』(第3巻)の刊行について	吉岡 治郎 (神戸海星女子学院大学名誉教授)
ゲルマン祖語における子音変化の記述をめぐって	上野 誠治 (北海学園大学教授)
ラテン語からフランス語への時制・アスペクト体系の変化	町田 健 (名古屋大学教授)
印欧語比較言語学の現状と課題	後藤 敏文 (東北大学教授)
閉会の辞	千種 眞一 (東北大学教授)

17:30 ~ 19:30 懇親会 (一般 3000円、学生 2000円 於福利会館3階食堂)

本Colloquiumは、わが国言語学会の巨人であった泉井久之助博士(1905-1983)によって創始された「日本印欧学研究者専門会議」(The Conference of Indo-Europeanists of Japan)に端を発し、博士亡きあと蛭沼寿雄博士(1914-2001)によって大阪言語研究会に受け継がれた伝統ある会です(詳しくは後掲の「The Indo-European Colloquium of Japanの系譜(抄)」をご参照ください)。印欧語比較言語学あるいは印欧語の古層を主題とする学術集会としては、恐らく本邦唯一のものでしょう。本Colloquiumを通じてわが国の印欧語学、あるいは歴史言語学全般が生々発展するよう、今後とも是非お力添えください。

目次

	page
プログラム	1
講演者のご紹介(抄)	2
The Indo-European Colloquium of Japanの系譜(抄)	4
付記	9
「日本印欧語学会」(仮称)設立についてのアンケート	10

ご記入の上、受付の回収箱にお入れください

講演者のご紹介

【略】

The Indo-European Colloquium of Japan の系譜 (抄)

1988年、The Indo-European Colloquium of Japan は大阪言語研究会第91回例会として生まれました。しかし、そもそもその発端は、1978年秋、かの泉井久之助博士（当時京都大学名誉教授、京都産業大学教授・国際言語科学研究所所長）が、大阪言語研究会を主催する昵懇の蛭沼寿雄博士（当時関西学院大学教授）に「印欧語の会をやらないか？」と声をかけられ、「日本印欧学研究者専門会議」（The Conference of Indo-Europeanists of Japan）を発起したことにあります（蛭沼寿雄「泉井久之助先生を偲ぶ」『同道精進』（1994））。

泉井博士の情熱と献身的な努力によって1979年に結実したこの会議は計4回開催され、わが国の印欧語研究者が一堂に会して互いの研究成果を共有し、また交流を促す貴重な機会となりました。しかし、主催する泉井博士がご健康を害し、1983年5月28日に幽冥境を異にされたため、泉井博士の遺志を継いだ蛭沼博士が急遽大阪言語研究会の例会2回をもって同年の第5回会議に充て、翌1984年からは新設の印欧学研究会がこれを引き継ぎました。1986年の第3回を最後に蛭沼博士は印欧学研究会を離れ、翌年から大阪言語研究会の活動の一環として印欧語学特別例会（1987）が、次いで翌年から **The Indo-European Colloquium of Japan** が開催されるに至りました。泉井・蛭沼両博士の情熱と努力の結晶たる本 Colloquium が生生発展するよう、同学の皆様のご協力をいただければ幸甚です。

泉井 久之助（いずい ひさのすけ 1905 - 1983）博士

略 歴 京都帝国大学、大学院を経て京都大学教授、京都産業大学教授、日本言語学会会長等を歴任。文学博士。紫綬褒章。勳二等瑞宝章。

主な業績 『言語学概説』（1933（筆名 新村 出））、メイエ『史的言語学に於ける比較の方法』（1934）、トムセン『言語学史』（1937）、『ヴィルヘルム・フォン・フンボルト』（1938）、『言語の構造』（1939）、『言語学論攷』（1944）、『言語構造論』（1947）、『ラテン広文典』（1952）、『言語の研究』（1956）、『言語の構造』（1967）、『ヨーロッパの言語』（1968）、『印欧語における数の現象』（1978）など多数。詳しくは『泉井久之助博士著書論文目録』（泉井久之助先生生誕百年記念会 2005）等を参照。



蛭沼 寿雄（ひるぬま としお 1914 - 2001）博士

略 歴 東京帝国大学卒業。ハーバード大学で Joshua Whatmough 教授に師事。関西学院大学教授。文学博士。

主な業績 『新約聖書の成立』（1950）、『新約外典概説』（1953）、J. H. モールトン『新約研究入門：パピルスと新約研究』（1953）、ホワットモー『言語：現代における総合的考察』



(久野 暉氏と共訳 1960)、『新約・古典ギリシヤ語の読み方』(1973)、『ホワットモー：その業績と言語理論』(1975)、『原典新約時代史：ギリシヤ、ローマ、エジプト、ユダヤの史料による』(1978)、『ギリシア語新約語法』(1989)など、古典語、ケルト語、新約学を中心に多数。三省堂言語学大辞典ではイタリック語派、イタロ・ケルト語群、ケルト語派、ヴェネト語等を担当。詳しくは上記『同道精進』等を参照。

- ①第1回 日本印欧学研究者専門会議 1979年6月25、26日 於京都産業大学
- | | |
|----------------------------------|--------------------------|
| あいさつ | 村山七郎 (京都産業大学国際言語科学研究所所長) |
| 経過報告 | 泉井久之助 (京都大学名誉教授、京都産業大学) |
| 印欧語民族と馬の飼育 | 岸本通夫 (大阪大学名誉教授) |
| 古期ケルト語動詞の構造：接中代名詞の使用について | 土居敏雄 (豊橋技術科学大学) |
| シケル語について | 蛭沼寿雄 (関西学院大学) |
| 日本のイラン学 | 伊藤義教 (京都大学名誉教授、京都産業大学) |
| Homerosにおける表現の formula と文的創造との関係 | 岡 道男 (京都大学) |
| 母と父 | 風間喜代三 (東京大学) |
| 一スラヴィストの見たギリシア語のアスペクト | 木村彰一 (東京大学名誉教授) |
| 能格：この不思議なるもの | 下宮忠雄 (学習院大学) |
| 韓国語系統研究の現況と問題点 | 金 芳漢 (ソウル大学) |
| リトアニアにおけるバルト・スラヴ両語の研究について | 村田郁夫 (東京経済大学) |
| 印欧祖語の子音組織 | 松本克己 (金沢大学) |
| Lingua Venetica の動詞形 | 泉井久之助 (京都大学名誉教授、京都産業大学) |
| 閉会のあいさつ | 泉井久之助 (京都大学名誉教授、京都産業大学) |
- ②第2回 日本印欧学研究者専門会議 1980年6月23、24日 於京都堀川会館
- | | |
|-----------------------------------|-------------------------|
| 会議担当者序言 | 泉井久之助 (京都大学名誉教授、京都産業大学) |
| ホメロスの比喩の言語言語 | 岡 道男 (京都大学) |
| ゲルマン民族におけるパン | 下宮忠雄 (学習院大学) |
| バルト語の中性形の衰退過程について | 村田郁夫 (東京経済大学) |
| 古代イタリア中東部の言語 | 蛭沼寿雄 (関西学院大学) |
| 聖書のゴート語訳へのラテン語の影響 | 吉岡治郎 (神戸海星女子学院大学) |
| スラヴ語における非人称受動表現 | 山口 巖 (京都大学) |
| 印欧語民族の王権 | 大久間慶四郎 (豊橋技術科学大学) |
| ケルト語の構造 | 土居敏雄 (豊橋技術科学大学) |
| Skr. (á-)bhū-t, Gr. (ἐ-)φύ[τ]について | 泉井久之助 (京都大学名誉教授、京都産業大学) |
- ③第3回 日本印欧学研究者専門会議 1981年6月22、23日 於京都堀川会館
- | | |
|---------------------------------|---------------|
| 英語方言における人称代名詞の印欧語的性格 | 岩本 忠 (京都産業大学) |
| ウェイルズ語における緩音の現象と語順：動詞前虚辞の機能について | 水谷 宏 (金城学院大学) |

- ギリシャ文学における女性の言語 松平千秋 (京都大学名誉教授、京都産業大学)
スラヴ語における行為名詞 -nie について 山口 巖 (京都大学)
バルト語の名詞複数主格形 -ai をめぐって 村田郁夫 (東京経済大学)
印欧語における完了形とゲルマン語 泉井久之助 (京都大学名誉教授、京都産業大学)
インド語史の一断面 風間喜代三 (東京大学)
印欧語族の Kinship 大久間慶四郎 (豊橋技術科学大学)
ラエト語 (Lingua Raetica) の性格 蛭沼寿雄 (関西学院大学)

④第4回 日本印欧学研究者専門会議 1982年6月21、22日 於京都堀川会館

- ケルト語 (Old Irish) における palatalization について 土居敏雄 (豊橋技術科学大学)
古代オリエントにおける Hittite 語 吉川 守 (広島大学)
ヒットイト語と印欧語的動詞体系 泉井久之助 (京都大学名誉教授、京都産業大学)
バルト語の名詞属格形の問題 村田郁夫 (東京経済大学)
古代スラヴ語におけるいわゆる行為名詞 -nie と -tie について 山口 巖 (京都大学)
Pre-Indo-Europeans in Europe 大久間慶四郎 (豊橋技術科学大学)
ラテン語の家を意味する語について 堀井令以知 (関西外国語大学)
古代北イタリアのリグル語とレーポント語 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)

泉井博士のご病氣と急逝により第5回日本印欧学研究者専門会議は中止されました。

⑤大阪言語研究会 第69,70回例会 1983年8月29日、12月26日 於なにわ会館

- 印欧語における不定形
ヴェーダ語、サンスクリットの不定形 松村 恒 (四天王寺国際仏教大学)
ギリシア語等の不定形 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)
印欧語における ego 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)
中期インド・アリアン語の韻律再考: *Gācchandas* の場合 松村 恒 (四天王寺国際仏教大学)
ロシア語名詞の数のカテゴリーをめぐって 山口 巖 (京都大学)

⑥第1回 印欧学研究会 1984年6月15、16日 於京都産業大学

- 挨拶 矢島文夫 (京都産業大学国際言語科学研究所所長)
松平千秋 (議長、京都大学名誉教授、京都産業大学)
泉井久之助先生と印欧学 堀井令以知 (関西外国語大学)
印欧アナトリア語派におけるリュキア語の位置 松本克己 (筑波大学)
象形文字ルウィ語の関係接続詞について 大城光正 (岡山理科大学)
死をめぐる表現 風間喜代三 (東京大学)
印欧語とセム語の比較: 学史的展望 矢島文夫 (京都産業大学)
ロマンス語起動活用の起源について 小林 標 (京都産業大学)
Venet. *ekupeθaris* 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)

- ⑦第2回 印欧学研究会 1985年11月15、16日 於京都産業大学
- 西洋古典学と私 松平千秋 (京都産業大学)
 現代ギリシア語事始め 関本 至 (広島文教女子大学)
 以上司会 木村彰一 (東京大学名誉教授)
- ミノア文字研究の現状：特に線文字Aを中心に 松本克己 (筑波大学)
 オスク語 *eítuns*- 構文 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)
 以上司会 風間喜代三 (東京大学)
- シンポジウム「ギリシア・ローマの詩と言語」
- 基調報告者 小川正広 (京都産業大学)、片山英男 (東京大学)、逸見喜一郎 (成城大学)、小林 標 (京都産業大学)
- コメンテーター 岡 道男 (京都大学)、中山恒夫 (大阪大学)
- 司会 橋本隆夫 (神戸大学)
- 発言者 松平千秋 (京都産業大学)、川島重成 (国際基督教大学)、松本克己 (筑波大学)、中務哲郎 (京都産業大学)、木村彰一 (東京大学名誉教授)

- ⑧第3回 印欧学研究会 1986年10月4、5日 於京都産業大学
- インド・イラン語派と印欧語研究 (特別講演) 風間喜代三 (東京大学)
 中期イラン語におけるサカ語の位置について 熊本 裕 (四天王寺国際仏教大学)
 中世イラン語と中古漢語 吉田 豊 (四天王寺国際仏教大学)
 ドラヴィダ語とインド=アリア語の相互影響 内田紀彦 (園田女子大学)
 インドの天文学書に見られるギリシア語からの借用語について 矢野道男 (京都産業大学)
- シグマによる印欧語の未来形成の問題について 吉田和彦 (京都大学)
- 象形文字ルウィー語 *apa/api* について 大城光正 (京都産業大学)
- カタロニア語の起動動詞 小林 標 (京都産業大学)
- イタリック語派の問題 (特別講演) 蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)
- rのゆくえ (アイルランド語の受け身) 土居敏雄 (豊橋技術科学大学)
- 英語におけるウムラウト 岩本 忠 (京都産業大学)

以降、蛭沼博士は印欧学研究会の運営から離れ、泉井博士が創設した日本印欧学研究者専門会議の伝統は、蛭沼博士の主催する大阪言語研究会に受け継がれました。

- ⑨大阪言語研究会 第87回例会 (印欧語学特別例会) 1987年12月26日 於なにわ会館
- ルウィー語と印欧語研究 大城光正 (京都産業大学)
 印欧語の序数：ゴール語に関連して 蛭沼寿雄 (関西学院大名誉教授)

- ⑩ The 10th Indo-European Colloquium of Japan (大阪言語研究会 第91回例会)
 1988年10月26日 於なにわ会館

印欧語族の文化について	風間喜代三 (東京大学)
ヒットイト語の動詞体系とその起源をめぐって	吉田和彦 (京都大学)
印欧語における能格性の問題	松本克己 (筑波大学)
英語動詞における印欧語的性格	岩本 忠 (京都産業大学)
バナサクの碑文について	土居敏雄 (豊橋技術科学大学)
アナトリア諸語における代名詞の形成について	大城光正 (京都産業大学)
ヴェネト語 kv	蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)

⑪ **The 11th Indo-European Colloquium of Japan** (大阪言語研究会 第96回例会)

1989年10月7日 於なにわ会館

ヴェネト語 kv	蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)
ノヴゴロド第一年代記における完了時称	山口 巖 (京都大学)
バルト語のアクセントと形態について	村田郁夫 (東京経済大学)
「子供」または「息子」を意味する象形文字ルウィ語について	大城光正 (京都産業大学)
言語と文化：バナサク碑文をめぐって	土居敏雄 (豊橋技術科学大学)

⑫ **The 12th Indo-European Colloquium of Japan** (大阪言語研究会 第100回例会)

1990年9月29, 30日 於なにわ会館

The Position of Germanic among the Indo-European Languages	Prof. Edgar C. Polomé (Univ. of Texas at Austin)
Europe as a Linguistic Area	Prof. Katsumi Matsumoto (Tsukuba Univ.)
Hospitality, Honour-Price and the Fatal Feast in Ancient Irish Law-tract — a Sequel to the Inscription of Banassac	Prof. Toshio Doi (Nagoya Women's College)
Leponitic pala	Prof. Emer. Toshio Hirunuma (Kwansei Gakuin Univ.)

⑬ **The 13th Indo-European Colloquium of Japan** (大阪言語研究会 第104回例会)

1991年9月22日 於なにわ会館

英語方言にみる古期英語語形	岩本 忠 (京都産業大学)
後期パーリ語におけるシンハラ語的要素	松村 恒 (親和女子大学)
古プロシア語『標準化』の試み：テキストの特殊事情から	井上幸和 (神戸市外国語大学)
コータン語の音韻	熊本 裕 (東京大学)
sudpiceno	蛭沼寿雄 (関西学院大学名誉教授)

⑭ **The 14th Indo-European Colloquium of Japan** (大阪言語研究会 第108回例会)

1992年10月4日 於なにわ会館

Kaluza's Law について	鈴木誠一 (広島大学)
海の民族と印欧語族	大久間慶四郎 (豊橋技術科学大学)

- 三省堂『言語学大辞典』の編纂にあたって 千野栄一（東京外国語大学名誉教授）
古代スラブ語研究の過去と現在 千野栄一（東京外国語大学名誉教授）
スペイン・西ゴート法典 Forum Judic, 681 年とスペイン語法典 Fuero Juzgo, 1254 年
近松洋男（天理大学）

⑮ The 15th Indo-European Colloquium of Japan（大阪言語研究会 第 112 回例会）

1993 年 9 月 19 日 於なにわ会館

- 英語の時の表現体系 山下美津子（京都教育大学）
チェコ語動詞の態体系：機能論的アプローチ 本城二郎（岡崎女子短期大学）
所有者の表現について 藤村逸子（名古屋大学）
フランス語の日常言語に隠された失礼さ 西村淳子（名城大学）
新約ギリシア語における動詞前接辞について 山本伸也（聖和大学）
古ピカルディー方言の統語論的特徴 林田節子（関西学院大学）
ラトヴィア語における英語語彙：Baldunčiks の辞書を資料として
田中研治（神戸女子薬科大学）

⑯ The 16th Indo-European Colloquium of Japan（大阪言語研究会 第 116 回例会）

1994 年 10 月 2 日 於なにわ会館

- イングランド方言における摩擦音の交替 石原田正廣（四天王寺国際仏教大学）
バルト・スラヴ語アクセント法の史的法則 柳沢民雄（名古屋大学）
Matronae 信仰をめぐる言語的諸問題 相京邦宏（豊橋技術科学大学）
アショーカ王刻文の言語と本文批判 松村 恒（親和女子大学）

蛭沼博士のご病気とご逝去（2001 年）等により中断

⑰ The 17th Indo-European Colloquium of Japan（大阪言語研究会 第 163 回例会）

2008 年 12 月 27 日 於待兼山会館（大阪大学）

- 開会の辞 堀井令以知（関西外国語大学教授）
一般言語学と内容的類型学 山口 巖（京都大学名誉教授）
hic-iste-ille（付：泉井久之助先生の人と業績） 下宮忠雄（学習院大学名誉教授）
閉会の辞 吉岡治郎（神戸海星女子学院大学名誉教授）

⑱ The 18th Indo-European Colloquium of Japan（大阪言語研究会 第 166 回例会）

2009 年 12 月 19 日 於 21 世紀懷徳堂（大阪大学）

- 開会の辞 鈴木誠一（関西外国語大学教授）
印欧語における人称標示について 千種眞一（東北大学教授）
ラリングルと印欧語のシュワー 神山孝夫（大阪大学教授）
閉会の辞 吉岡治郎（神戸海星女子学院大学名誉教授）

①9 The 19th Indo-European Colloquium of Japan (大阪言語研究会 第168回公開講演会)

2010年12月11日 於文法経講義棟41教室 (大阪大学)

開会の辞	神山孝夫 (大阪大学教授)
土居敏雄先生のご逝去を悼む	本城二郎 (大阪大学講師)
蛭沼寿雄先生の遺作『新約本文のパピルス』(第3巻)の刊行について	吉岡治郎 (神戸海星女子学院大学名誉教授)
ゲルマン祖語における子音変化の記述をめぐって	上野誠治 (北海学園大学教授)
ラテン語からフランス語への時制・アスペクト体系の変化	町田健 (名古屋大学教授)
印欧語比較言語学の現状と課題	後藤敏文 (東北大学教授)
閉会の辞	千種眞一 (東北大学教授)

付 記

本日はご来駕を賜り誠にありがとうございます。

The Indo-European Colloquium of Japan は、主催者であった蛭沼寿雄博士のご病気とご逝去によって1994年を最後に、13年の長きにわたり開催が中断されておりましたが、多くの先生方のご理解とご協力を得て、2008年末に再開することができました。

今のところ、このような晴れがましい名称と伝統にはまったくそぐわない小規模な会がありますが、今後皆様のご支援を得まして、徐々にかつての隆盛を取り戻すことができれば、また、出身・勤務校や所属学会の枠、あるいは研究対象の言語や方法論上の相違を超えて、わが国の印欧語比較言語学と印欧語古層等の研究・教育を振興する機会を継続的に提供できればと考えます。同学諸兄のご理解とご協力を切にお願いする次第であります。

2010年12月11日 世話人記

【住所略】 大阪大学文学研究科 神山孝夫
【メールアドレス略】

【URL略】

「日本印欧語学会」(仮称) 設立についてのアンケート

印欧語にせよ、その他の系統の言語にせよ、現在の日本に言語の歴史的研究を専門に扱う学会はありません。該当する研究者の多くは日本言語学会、あるいは日本英文学会、日本英語学会、日本独文学会、日本フランス語学会、日本ロマンス語学会、日本ロシア文学会、日本アイスランド学会等々、既存の言語系学会に所属しています。しかしながら、これら既存諸学会において言語の歴史的研究に関する研究発表・講演が行われることは極めてまれであり、また、それが行われる貴重な機会においても、聴衆は事情に通じた方々ばかりではないため、必ずしも有意義な情報交換が実現しているとは言い難いと思います。結局、現在の日本には言語の歴史的研究を振興し、研究者同士が切磋琢磨する場は整っていないと言えるでしょう。

そこで、中断を経たとはいえ、30年以上にわたる伝統を有し、日本を代表する印欧語学者が築いたThe Indo-European Colloquium of Japanを基礎として、新たな学会設立を考えるに至りました。その検討・準備のため、下記にご記入いただきますようお願い申し上げます。

なお、当然のことですが、記入いただいた個人情報他目的には使用いたしません。

質問1 現在所属している言語系の学会・研究会があれば、お記してください(複数可)。

質問2 印欧語を中心とした、言語の歴史的研究を専門に扱う学会が設立されれば、加入したいと思いますか？

YES NO

質問3 その学会にはどんな名称がふさわしいと思いますか？

日本印欧語学会 日本歴史言語学会 日本比較言語学会
その他()

質問4 そのような新学会設立に関して、ご自由にご意見をお記してください。

ふりがな
お名前

ご所属

ご専門

メールアドレス(ご利用でない場合は住所)

ご協力をありがとうございました。

【資料2】

【宛名略】

新年早々お騒がせいたします。

先日の Colloquium では誠にありがとうございました。改めて篤く御礼申し上げます。さて、アンケート等の反応は、ありがたいことに、その種の学会設立に対して好意的なものばかりでしたので、これに勇気を得て早速立ち上げのための作業を開始しようと思いません。

まずは新学会設立にご賛同くださった先生方に設立準備委員をお引き受けいただきたいと思えます（小生も加わらせていただきます）。無論、進行状況その他については適宜報告・相談させていただきますが、事務的な雑事は言い出しっぺの小生がやらせていただきますので、何卒ご承諾ください。

その後は設立準備委員会の名で発起人を募り、次いで発起人のお名前を記して新学会設立について周知するという段取りになろうかと思えます。

続いて、早速ながら、会の名称について相談させていただきます。印欧語関係者が大勢を占めるかもしれないが、狭い範囲の学会を作るのは財政の点でも、発展性においても好ましく思われないので、他の系統の言語研究者も加えて歴史言語学全体を対象にしてはどうかというご意見をいただきました。誠にごもっともと思えますので、仮に「日本印欧語・歴史言語学会」という名前を候補にしたいと思えます。あわせてこの点についてもご意見をいただければ幸甚であります。

返す返すも新年早々恐縮ですが、上2点につき「全員に返信」の形でご意見をいただければ幸甚であります。

神山孝夫

【資料3】

「日本歴史言語学会」設立にかかる発起人のお願い

拝啓

新たな年を迎え、先生にはご清祥のこととお慶び申し上げます。

まずは、年明け早々に突然厄介なお願いを申し上げる無礼をお許してください。

さて、ご承知のとおり、対象が印欧語であれ、その他の系統の言語であれ、今のところわが国に比較言語学ないし歴史言語学を中心的に扱う学会はありません。これにかかわる方々はやむなく既存の言語系学会に所属して研究活動を行っているものの、該当する研究者が比較的少ないためか、残念なことに、これら既存諸学会において言語の歴史的研究を振興する機会が生じることはほとんどない、あるいは極めてまれであります。

そのため、現在の日本において言語の歴史を研究する者同士が切磋琢磨する実質的な機会が小規模な研究会等において散発的に提供されているにすぎません。そのような機会のひとつであるThe 19th Indo-European Colloquium of Japan(2010年12月11日、於大阪大学)において試みに参加者40余名の意向を調査しましたところ、該当分野を専門的に扱う団体の設立が大いに望まれていることが確認されました。また、研究の広がりや奨励するためにも、団体の適性規模を確保するためにも、対象分野を例えば印欧語に限定せずに、歴史言語学全般を一括して扱うべきだとする意見が多く見られます。

以上のような事情に鑑み、わが国における歴史言語学の振興、ならびに研究者相互の交流と切磋琢磨を図るべく、「日本歴史言語学会」(Japan Society for Historical Linguistics)の設立を思い立つに至りました。

つきましては、出身校や所属研究機関、あるいは既存学会やかかわる言語の枠を超えて大方諸兄のご参加を募るべく、恐縮ながら是非先生に同学会設立の発起人にお加わりいただきたく、また上記新学会の運営方法等について何なりとご意見を賜りたく、お願い申し上げます。

恐縮ながら、下記連絡先までご意向のほどをお知らせいただければ幸甚であります。

敬具

2011年1月

「日本歴史言語学会」設立呼びかけ人

後藤敏文(東北大学)、千種眞一(東北大学)、野田恵剛(中部大学)、
鈴木誠一(関西外国語大学)、町田 健(名古屋大学)、清水 誠(北海道大学)、
神山孝夫(大阪大学)、堂山英次郎(大阪大学)

連絡先(暫定事務担当):

【住所略】 大阪大学文学研究科 神山孝夫

【資料4】

「日本歴史言語学会」設立のお知らせ

余寒の候、皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。

さて、ご承知のとおり、言語学は言語の歴史的研究にはじまります。文献学の伝統を受け継ぎつつ、19世紀のヨーロッパにおいて各言語の歴史的研究と印欧語比較言語学が飛躍的な発展を遂げ、その片鱗が上田萬年（1867-1937）によって日本に齎されると、辻直四郎（1899-1979）、泉井久之助（1905-1983）、高津春繁（1908-1973）他によってその成果が咀嚼・紹介されました。さらには、その応用から新村 出（1876-1967）、橋本進吉（1882-1945）、有坂秀世（1908-1952）等によって本格的な日本語史研究が開始され、他方では藤岡勝二（1872-1935）、服部四郎（1908-1996）によってアルタイ諸語の、また泉井によってオーストロネシア諸語のそれぞれ歴史的研究の端緒が築かれました。

学統は受け継がれ、海外の学界で活躍する歴史言語学者も輩出されるに至っていますが、その反面、近年において日本国内における歴史言語学の認知度と言語学に占めるその比重は低下の一途を辿り、その裾野は狭まる一方であります。今こそ、既存の学会や研究機関の枠、扱う言語の枠、文献研究、比較研究等の方法論の枠を超え、さらには歴史学、考古学、神話学、宗教学、文化人類学等とも連携を図りつつ、わが国における歴史言語学と隣接諸分野の振興と普及、ならびに研究者相互の交流と切磋琢磨を行う母体の構築が必要だと言えましょう。ここに日本歴史言語学会（Japan Society for Historical Linguistics）の設立を發起する所以であります。

追って設立総会・第一回大会についてご案内差し上げますが、まずは該当分野の専門研究者のみならず、同分野を志望する大学院生、また同分野に関心をお持ちのあらゆる方々に、設立の趣旨にご賛同いただき、ご入会とご協力をいただきますよう切にお願いする次第であります。

ご意見、ご質問は何なりと暫定事務局までお寄せください。

2011年2月吉日

発起人 アーウィン・マーク（Irwin Mark）、飯嶋一泰【故人】、石井正人、板橋義三、井上幸和、入江浩司、上野誠治、江藤裕之、大門正幸、大城光正、大森裕實、岡島昭浩、岡本崇男、織田哲司、風間喜代三、片見彰夫、上岡弘二、神山孝夫、菊澤律子、北岡千夏、金水 敏、工藤康弘、黒澤直俊、黒田 享、児玉茂昭、後藤敏文、堺 和男、櫻井映子、櫻井 健、嶋崎 啓、清水育男、清水 誠、下宮忠雄、菅原和竹、鈴木誠一、鈴木直樹、高田博行、田中俊也、田村建一、千種真一、柘植洋一、堂山英次郎、中村幸一、ナロック・ハイコ（Narrog Heiko）、西村秀夫、野田恵剛、野町素己、服部文昭、藤井文男、堀井令以知、本城二郎、町田 健、松本克己、森田信也、山口 巖、山部順治、山本伸也、山本文明、吉田 豊、渡辺 学（五十音順）

暫定事務局：【住所略】大阪大学文学研究科 神山孝夫研究室内

【資料5】

日本歴史言語学会
設立総会・第一回大会開催のお知らせ

新緑の季節を迎えましたが、皆様にはご清祥のこととお慶び申し上げます。併せて、このたびの東日本大震災で被災なされた方々には心よりお見舞い申し上げます。

さて、本年2月にお知らせしましたとおり、わが国における歴史言語学全般の振興をめざして日本歴史言語学会 (Japan Society for Historical Linguistics) が設立されます。幸い、多くの方々のご賛同を得まして、設立総会・第一回大会が下記の要領で執り行われる運びとなりました。プログラムの詳細は初秋に決定され、別途お知らせいたします。生憎師走中旬の開催となりましたが、万障お繰り合わせの上、ふるってご参加いただけますようお願いいたします。

日本歴史言語学会 設立総会・第一回大会 次第 (暫定)

時 2011年12月17日(土)～12月18日(日)

於 大阪大学 豊中キャンパス (会場未定)

<http://www.osaka-u.ac.jp/ja/access/>

暫定プログラム

2011年12月17日(土)

13:00～14:30 設立総会

14:45～15:00 第一回大会 開会の辞

15:00～17:00 設立記念シンポジウム

18:00～20:00 懇親会

2011年12月18日(日)

10:00～17:00 研究発表会

(12:00～13:00 昼食休憩)

17:00 閉会の辞

つきましては、研究発表のお申し出は別紙記載の要領に従い8月末までに暫定事務局までお寄せください。ご入会申し込み、ご意見、ご質問も随時歓迎します。

【中略】

末筆ながら、発起人の先生方をはじめとして、様々な段階においてご協力をいただいた方々に、この場をお借りして篤く御礼申し上げます。今後とも何卒よろしくお力添えください。

2011年5月吉日

暫定事務局：【住所略】大阪大学文学研究科 神山孝夫研究室内

【メールアドレス略】

【資料6】

2011年12月17日(土)、18日(日)

日本歴史言語学会
設立総会・第一回大会

於大阪大学豊中キャンパス 豊中総合学館(旧称 文系総合研究棟)

第一日 2011年12月17日(土)

- | | | |
|-------------|-------------------|-----------------|
| 12:30 | 受付開始 | 於 講義室 301 前 |
| 13:00～14:30 | 日本歴史言語学会 設立総会 | 於 講義室 301 |
| 14:30～15:00 | 入会手続 | |
| 15:00 | 日本歴史言語学会 第一回大会 開会 | |
| | 開会の辞 | |
| | 会長就任挨拶 | 日本歴史言語学会会長 |
| | 開催校挨拶 | 大阪大学文学研究科長 |
| | | 片山 剛 |
| 15:20～17:00 | 日本歴史言語学会 設立記念講演会 | |
| 15:20～16:10 | 設立記念講演 | 金沢大学・静岡県立大学名誉教授 |
| | イネ・コメの比較言語学 | 元日本言語学会会長 |
| | | 松本 克己 |
| 16:10～17:00 | 設立記念講演 | 関西外国語大学名誉教授 |
| | Egoとワタクシ | 新村 出記念財団理事長 |
| | | 堀井 令以知 |
| 17:00 | 記念撮影 | |
| 17:30～19:30 | 懇親会 | 於 福利会館 三階食堂 |

設立記念講演者のご紹介

松本克己先生 1929年長野県生まれ、東京大学文学部言語学科、同大学院にて高津春繁博士、服部二郎博士等に師事。金沢大学、筑波大学、静岡県立大学教授を経て金沢大学・静岡県立大学名誉教授、元日本言語学会会長。専攻は印欧語比較言語学、言語類型論。最近のご著書：『世界言語への視座：歴史言語学と言語類型論』（三省堂2006）、『世界言語のなかの日本語：日本語系統論の新たな地平』（三省堂2007）、『世界言語の人称代名詞とその系譜：人類言語史5万年の足跡』（三省堂2010）。

堀井令以知先生 1925年京都生まれ、京都大学文学部言語学科、同大学院にて新村 出博士、泉井久之助博士等に師事。関西大学、愛知大学、南山大学、関西外国語大学教授等を経て関西外国語大学名誉教授、新村 出記念財団理事長。主なご著書：『語源大辞典』（東京堂1988）、『語源をつきとめる』（講談社現代新書1990）、『外来語語源辞典』（東京堂1994）、『比較言語学を学ぶ人のために』（世界思想社1997）、『ことばの不思議』（おうふう1998）、『一般言語学と日本語学』（青山社2003）、『ことばの由来』（岩波新書2005）、『京都語を学ぶ人のために』（世界思想社2006）等多数。

第二日 2011年12月18日(日)

研究発表会

	第一会場 講義室 301		第二会場 講義室 302	
	発表者	司会者	発表者	司会者
10:00 ~10:30	仲尾周一郎 (京都大学(院))	神山孝夫 (大阪大学)	劉洪岩 (九州大学(院))	金水 敏 (大阪大学)
	アラビア語ピジンの歴史的再構: 19世紀末南スーダンにおけるビンバシ・アラビア語		中世から近代までの ヲ格複合助詞の文法化の特徴について	
10:35 ~11:05	齋藤有哉 (京都大学(院))	神山孝夫 (大阪大学)	黒木邦彦 (甲南女子大学)	金水 敏 (大阪大学)
	歴史言語学の方法論的基礎		日本語の過去表現の構造とその変化	
11:10 ~11:40	菅野開史朗 (ラトビア大学)	井上幸和 (神戸市外国語大学)	大塚恵子 (東京造形大学)	岡島昭浩 (大阪大学)
	エンゼリーンス没後50年によせて		言語接触を想定した 日本語方言アクセント史の試み	
11:45 ~12:15	本城二郎 (大阪大学)	岡本崇男 (神戸市外国語大学)	Irwin, Mark (山形大学)	岡島昭浩 (大阪大学)
	チェコ語単文の歴史的変化とプラハ言語学派: 時代別チェコ語訳聖書テキストの要素分割 性と機能構造を中心として		Replication of Epenthetic Vowels in Japanese Loanwords from the 16 th to the 21 st century	
12:15 ~ 13:00 昼食休憩				
13:00 ~13:30	田口善久 (千葉大学)	藤井文男 (茨城大学)	山泉 実 (東京外国語大学)	町田 健 (名古屋大学)
	ミエン語系諸語の系統と分類について		「気に入る」の項の格の変異と語彙化	
13:35 ~14:05	興石哲哉 (実践女子大学)	服部義弘 (静岡大学)	山部順治 (ノートルダム清心女子大)	町田 健 (名古屋大学)
	英語の語形成史と形容詞のタイプについて		日本語で現在進行中の語順変化	
14:10 ~14:40	織田哲司 (東京理科大学)	鈴木誠一 (関西外国語大学)	山口和彦 (札幌医科大学)	松村一登 (東京大学)
	「流れる」、「切る」、「強い」を表す印欧語 根の音象徴性について: <i>Beowulf</i> における 語頭音 <i>fl-</i> , <i>sc-</i> , <i>wac-</i> などの用例とともに		アジアの言語に見られる可能形式の 文法化	
14:45 ~15:15	江藤裕之 (東北大学)	鈴木誠一 (関西外国語大学)	渡部正路	板橋義三 (九州大学)
	語源学における science vs. imagination: 「イメージの語源学」再考		日本語語彙の生成構造	
15:20 ~15:50	田中俊也 (九州大学)	菅原和竹 (宮城教育大学)	野田恵剛 (中部大学)	板橋義三 (九州大学)
	ゲルマン語強変化動詞IV, V 類の 過去複数形をめぐる考察		日本語における古代漢語借用語と日 本語の系統論	
15:55 ~16:25	清水 誠 (北海道大学)	石井正人 (千葉大学)		
	ゲルマン語の「nの脱落」と 形容詞弱変化の「非文法化」			
16:30	閉会の辞日本歴史言語学会副会長			

大阪大学 豊中キャンパスへのアクセス
【略】

最寄駅から 豊中総合学館（旧称 文系総合研究棟）へのアクセス
【略】

暫定事務局より
お知らせとお願い
【略】

以上